



預修十王生七經（五道輪轉王部分）宝寿院蔵 高野山大寶蔵展に出陳 関連記事は2～3頁

震宝館だより

題字・畚野光義師

靈宝館だより 第107号

平成25年7月3日発行
 和歌山県伊都郡高野町高野山3006
 公益財団法人高野山文化財保存会
 高野山靈宝館
 電話0736-56-2029
 URL <http://www.reihokan.or.jp>

利用案内

開館時間
 ■5月1日～10月31日 8時30分～17時30分
 ■11月1日～4月30日 8時30分～17時00分
 ■休館日 年末年始のみ

拝観料 大人 600円
 高・大学生 350円
 小・中学生 250円
 高野町に住民票がある方、高野町内の学校に在籍する学生の方は入館無料です。
 ■専用駐車場あり

第34回高野山大寶蔵展

「高野山の名宝」

— 八大童子像に会いにきませんか —

7月13日（土）～9月23日（月・祝）

7月17日（水）ナイトミュージアム

（開館時間を20時まで延長）

第107号 目次

大寶蔵展のご案内	2～3
収蔵品の紹介81	4～5
高野山の古建築 第十一回	6
これからの催しと報告	7
靈宝館の庭園	8

毎月21日（弘法大師の日）ご来館の方にプレゼントあり！ ホームページ割引券もご利用ください



国宝 八大童子立像のうち 矜羯羅童子像(左) 制多加童子像(中) 清浄比丘童子像(右)



国宝 八大童子立像のうち 恵光童子像(左) 烏俱婆戩童子像(中) 恵喜童子像(右)

第34回高野山大寶蔵展

「高野山の名宝」——八大童子像に会いにきませんか——

期間 平成25年7月13日(土)～9月23日(月・祝)

高野山は真言密教の道場として開かれましたが、多様な信仰にもなつて多くの宗教芸術ともいうべき仏像や仏画が伝えられてきました。今回はその一端を垣間見ていただくとするものです。

主な出品

前期：7月13日(土)～8月25日(日)

後期：8月26日(月)～9月23日(月)

彫刻

国宝 八大童子立像 八軀のうち六軀 金剛峯寺

国宝 諸尊仏龕 金剛峯寺

重文 文殊菩薩及使者像 遍明院

絵画

国宝 阿弥陀聖衆来迎図 有志八幡講十八箇院(前期)

国宝 伝船中湧現観音像 竜光院(後期)

国宝 阿弥陀三尊像 蓮花三昧院

重文 阿界曼荼羅図 竜光院

重文 阿頭愛染曼荼羅図 金剛峯寺

重文 五大菩薩像のうち 雷電吼・竜王吼 普賢院

重文 恵果阿闍梨像 西生院

重文 八宗論大日如来像 善集院

重文 紅顔梨色阿弥陀像 桜池院



国宝 阿弥陀聖衆来迎図 (前期展示)



国宝 伝船中湧現観音像 (前期展示)



国宝 阿弥陀三尊像



国宝 諸尊仏龕



国宝 沢千鳥螺鈿蒔絵小唐櫃 (後期展示)

浄土信仰と地獄と極楽

新館第2室では、「浄土信仰と地獄と極楽」をテーマに、地獄の10人の裁判官を描いた「十王図」と、極楽浄土から来迎する「阿弥陀三尊像」(国宝)を展示します。あわせてご覧ください。

※「十王図」について、本誌4～5頁でご紹介しています。

ご来館の方に、展覧会のみどころをわかりやすく紹介したパンフレットをプレゼント!
(希望者のみ、限定5,000部)



表紙イメージ

- 書跡
 - 国宝 不空羅索神変真言經 三宝院
 - 国宝 紫紙金字金光明最勝王經 竜光院
 - 国宝 又続宝簡集七十八卷 阿弓河庄上村百姓等言上状 金剛峯寺
 - 国宝 文館詞林残卷 正智院
- 工芸
 - 国宝 沢千鳥螺鈿蒔絵小唐櫃 金剛峯寺 (後期)
- 重文
 - 重文 紅玻璃阿弥陀像 正智院
 - 重文 弁才天図 宝城院
 - 重文 不動明王二童子毘沙門天図像 円通寺
 - 重文 五大虚空蔵菩薩像 西南院
 - 重文 普賢延命菩薩像 正智院
 - 重文 不動明王二童子像 宝城院
 - 重文 理趣経十八会曼荼羅図 天徳院
 - 未指定 十王図 (武田信綱筆) 成慶院
 - 未指定 預修十王生七経 宝寿院

収蔵品の紹介 81



⑤閻魔王 十王の中で最も有名な、「閻魔さま」です。「浄
 顔梨の鏡」には、死者の生前の善行・悪行が映し出されます。



②初江王 死者の着物をはぎ取り、枝に掛けてその重さ
 で罪の重さを判断するという、奪衣婆だつえぼが描かれています。

十王図じゅうおうず

十幅

室町時代(十六世紀)

絹本着色

成慶院蔵

武田信綱筆

縦 88・5 ～ 88・6 cm

横 40・8 ～ 41・0 cm

今から十五～二十五年くらい前の
 霊宝館は、夏といえば「地獄・極楽」
 展が恒例でした。その頃の高野山は、
 夏になると林間学校の子どもたちが
 大勢、避暑と参拝にやってきて、宿坊
 からは賑やかな声が毎日響いてきた
 ものです。夜になると肝試しに向かう
 子どもたちの行列が…の一助になっ
 たかどうか分かりませんが、霊宝館で
 この十王図を見て、怖い記憶が残った
 子も多かったでしょう。

十王図は人が亡くなると、あの世で
 その人が生前犯した罪について裁判
 をし、行き先を決める、十人の王を描
 いたものです。十王の思想は中国から
 入ってきたもので、日本では鎌倉時代
 以降、十王図が制作されました。本図
 はそれぞれの画面構成はほぼ同じで、
 椅子に座る十王と、その頭上には本地
 仏ほんじ(本来の姿)が描かれ、人間のよう
 な、少々人間離れたような従者が王
 の仕事を補佐しています。画面の下半
 分には地獄の光景が描かれ、生前の罪
 に応じて、鬼たちによってさまざま
 な責め苦が行われています。

成慶院に伝わる本図を描いたのは、
 武田信綱たけだのぶつな(天文元年(一五三二)ある
 いは享祿元年(一五二八)～天正一〇
 年(一五八二))とされています。信
 綱は別名信廉、あるいは逍遙軒しょうようけんといい、
 戦国武将・武田信玄の弟です。合戦で
 は兄と共に戦い、また影武者を務めた



⑥変成王



④五官王



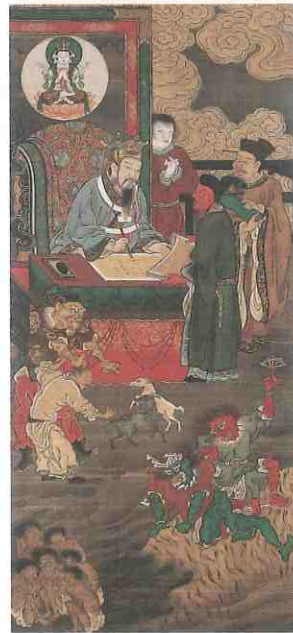
③宋帝王



①秦広王



⑩五道転輪王



⑨都市王



⑧平等王



⑦泰山王

ともいわれる、れつきとした武将ですが、絵を得意とし、大泉寺（山梨県）に伝わる武田信虎（信玄・信綱の父）像は信綱によって描かれたものです。成慶院は武田家の菩提寺で、信玄を描いたとされる肖像画や信玄所用の兜など、武田家ゆかりの品が多く伝わっており、本図もそのうちのの一つです。

最近、地獄の光景を描いた絵本が人気だそうです。夏の展示で本図を見て、悪いことをするとこうなりますよ、という戒めの気持ちを子どもたちに、また自分に刻みつけるのも、たまにはいいかもしれません。（F）

十王 名前・本地仏・審理の日一覧

仏教では亡くなってから四十九日まで、七日ごとに法要があるのは、王たちに対し死者の罪を減らすよう嘆願し、成仏を祈るためです。

名前 本地仏 審理の日

- ① 秦広王 不動明王 初七日(7日)
- ② 初江王 釈迦如来 二七日(14日)
- ③ 宋帝王 文殊菩薩 三七日(21日)
- ④ 五官王 普賢菩薩 四七日(28日)
- ⑤ 閻魔王 地藏菩薩 五七日(35日)
- ⑥ 変成王 弥勒菩薩 六七日(42日)
- ⑦ 泰山王 薬師如来 七七日(49日)
- ⑧ 平等王 観音菩薩 百か日(100日)
- ⑨ 都市王 勢至菩薩 一周忌(1年後)
- ⑩ 五道転輪王 阿弥陀如来 三回忌(2年後)

連載

高野山の古建築
第十一回 県指定文化財 総本山金剛峯寺(一)

鳴海 祥博



南正面の四脚門と築地塀 門の奥に大主殿が見えます。



東面の通用門 通用門は「会下(えか)門」と呼ばれる長屋門です。奥に玄関の屋根が見えます。



大主殿の正面全景 大主殿は正面の長さが28mの大建築です。屋根の上には火災に備えた「天水桶」が置かれています。



大主殿、玄関、台所の全景 大主殿の右手には大きな入母屋屋根の玄関、その右手に同じく入母屋屋根の台所が建ち並んでいます。

総本山金剛峯寺は高野山内のほぼ中央に位置しています。山内を東西に走る国道から北に四十mほどの緩衝地帯のような空地を隔てて、その奥に大きな四脚門と高い築地塀に囲まれてその寺はあります。東西及び南北とも約百十m四方の敷地の中に、大主殿や宗務所などたくさん建物建ち並んでいます。四脚門の正面に大主殿、その右手に玄関、更にその右手に台所が建っています。それらは大建築で威厳に満ち、見る者を圧倒します。

金剛峯寺のご住職は、「座主」という最上位の称号を与えられています。総本山金剛峯寺は高野山内のみならず、宗派を統括するお寺なのです。

ところで、ここを金剛峯寺と称したのは明治になってからで、それまでは「青巖寺」と称していました。青巖寺は豊臣秀

吉が文禄二年(一五九三)に建立し、高野山全山を統率する寺院として位置付けた寺でした。当時大きな勢力を持っていた高野山を支配するための、いわば政略だったのかも知れません。

明治維新で社会体制は一変し、高野山はそれまでの経済基盤を失って存亡の危機に直面します。高野山内にあった約七百の坊院は統廃合され、今日山内に残る約百二十カ寺に激減したのです。

明治二年(一八六九)、高野山で大規模な機構改革が行われました。それまで「学侶」「行人」「聖」という呼び名で厳格に区分されていた僧侶の派閥を廃止し、高野全山を統括していた「青巖寺」を、お大師さまが高野山を開いた時の思いに立ち返り「金剛峯寺」と改め、山内そして宗派を統率する寺院としたのです。

今見る総本山金剛峯寺の建物の多くは、二百七十年余りの間、高野山内の寺院を統括してきた青巖寺をそのまま引き継いだものなのです。

秀吉が建立した青巖寺は、その後焼失と再建を繰り返して、現存する大主殿と玄関、台所など

は、万延元年(一八六〇)の三度目の焼失の後、文久三年(一八六三)に再建されたものです。

その堂々として威厳に満ちた風格は、かつて高野山の頂点に君臨した青巖寺ならではの造形なのでしょう。

中でも大主殿と台所が横一列に連なり、その間に玄関が張り出す建物の配置は、とても特徴的です。これは高野山の寺院に共通するもので、その形式は古い絵図などから少なくとも江戸初期にまで遡ることが確認できます。現在の金剛峯寺大主殿は、恐らく秀吉の建立した青巖寺の姿を伝えているのではないのでしょうか。

大主殿と台所の屋根の上には「天水桶」といわれる雨水を溜める大きな桶が置かれています。今ではここで見られない珍しいものですが、かつての高野山では一般的な風景でした。度重なる火災の苦い経験から考え出された消火設備です。どれだけの効果があったのかは判りませんが、少なくとも防火に対する日々の戒めにはなったことでしょう。

高野山霊宝館からのご案内

これからの催し

秋期企画展

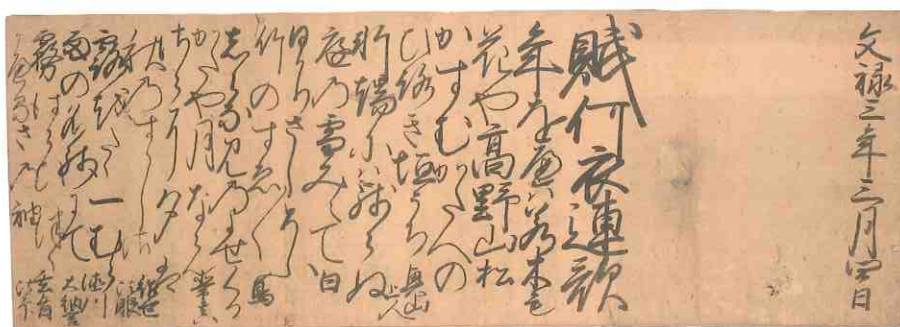
「徳川家と高野山」

【会期】9月28日(土)～12月15日(日)

徳川家霊台の内部特別公開(下記参照)にあわせ、徳川家と高野山との関係にスポットを当てた企画展を開催します。国宝・金銀字一切経をはじめ、興山寺(青巖寺と合併、現金剛峯寺)の東照宮に安置されていた徳川家康像や、家康が高野山で詠んだ歌も記された「文禄三年連歌懐紙」など、貴重な文化財を一堂に展示します。

主な出陳品

- 国宝 金銀字一切経 金剛峯寺
- 県指定 文禄三年連歌懐紙 安養院
- 未指定 家康公三河十六将伝記図 金剛峯寺
- 未指定 真田幸村(信繁)像 蓮華定院
- 未指定 東帯像(徳川家康像) 金剛峯寺
- 未指定 葵紋長持掛 金剛峯寺



和歌山県指定文化財 文禄三年連歌懐紙 安養院蔵

重文 徳川家霊台内部特別公開

【日程】10月12日(土)～10月20日(日)

【公開時間】9時～16時30分

【場所】徳川家霊台

(家康霊屋・秀忠霊屋)

【拝観料】200円(通常拝観料)

第8回 平成25年高野山霊宝館

もみじ祭

【期間】10月～11月

フォトコンテストほかを予定。詳細は次号でご案内します。

ご報告

長谷川智弘作品展

結びの世界「みやび」を開催

【会期】4月29日(月・祝)～5月5日(日)

霊宝館での開催も三回目を迎えました。いにしえより伝えられた結びの数々。今回の展示は、手紙の結びや、珍しい箱結びなども会場に並びました。ひとつひとつの結びには、意味がこめられています。様々な作



品を通じ、奥深いひも結びの世界を紹介していただきました。次回は今秋10月10日(木)～16日(水)を予定しています。

公益財団法人移行のお知らせ

このたび、高野山文化財保存会は、平成25年5月21日より公益財団法人に移行いたしました。

寄付の御礼

高野山真言宗兵庫支所様から文化財保護のための奉加金を頂戴いたしました。厚く御礼申し上げます。

霊宝館の庭園

スギ・杉・オモテスギ・須木

元高野山高等学校長 亀岡 弘昭

スギはスギ科・スギ属の常緑高木で、樹幹が真っ直ぐな木・すくのきが和名の由来。別名はオモテスギ、日本海側に多いスギの変種・ウラスギにたいする命名です。

針葉の形状による杉の字を慣用とし、生長の旺盛なことによる栂の字も。成木は樹冠が長円錐形となり針杉とも呼ばれています。大木・巨樹・名木・神木なども多く、樹齢は千年を越える個体も。古名には須木・沙木・参木・真木などがあります。

この樹は記紀にも登場し、『万葉集』では十二首に詠みこまれ、うち

九首は神とかかわる歌となっていてます。

スギ・ウラスギは、わが国の樹木のうち最も用途が広く、日本の「木の文化」を支えてきた樹種の一つでもあります。

高野山の山上のスギについては、高木のうちでは個体数の多い樹種であり、それらの大部分は長い年月をかけ、人の手によって播種・挿木・苗植などを行い、大切に育てられてきたものである。大木や巨樹が多く、微妙な変化はあるというものの、四季を通じて重厚な緑を保ち、聖地霊

場としての森厳で幽玄な環境・景観の主要素となっている。そこに住む者・訪れる人達に、畏敬の念を起こさせるとともに安らぎを与えている。良質の、特に大径木材は、寺院堂塔の建立や大修理などに欠かせないものである。などがあげられます。

杉林については、奥の院の大杉林が和歌山県の天然記念物、国の特別母樹林に指定されていることに加え、平成十三年に「高野山奥之院の杉と線香」として、環境省から「かおり風景一〇〇選」に選定されました。スギの生葉を乾燥したものを主

原料とした線香が、高野山では現在もつくられています。

「性霊集」・巻第一・山中有何楽に、
「荊葉杉皮是我茵」とあり、弘法大師が高野の山中の生活・修法（行法）などにおいて、杉皮を茵（敷物）として用いられたと想われます。現在は杉皮葺き（屋根葺き材）に利用されています。

高野山では法会の期間中などに、金剛峯寺や各寺院の門前に、各一對の水桶と方形筒状の容器にスギの小枝葉をさし飾った「杉盛り」というものが置かれます。その由来などは、平成二十年・三月一日の『高野山教報』にて、日野西眞定先生が詳しく解説されています。

今年「高野六木」が制定（一八一三年）されて二百年を経たという、高野山のスギにとって記念すべき年でもあります。



霊宝館庭園の針杉



スギ（杉）の葉と雄花



杉皮と毬果（種子を宿す）